

令和4年度学校自己評価システムシート (県立大宮高等学校)

目指す学校像	安全・安心な環境の下、文武両道を旨とし、正義感溢れる心身ともに健康な生徒を育てる学校
--------	--

重点目標	1 生徒の能力を最大限に引き出す授業を実践し、自主学習する習慣を確立させ、確かな学力の定着を図る。 2 組織的・計画的なキャリア教育を通して、生徒が主体的に一つ上を目指し進路を実現できる能力を培う。 3 生徒指導の充実と部活動等の活性化を図り、安全・安心な環境の下、高い規範意識と豊かな人間性を持った生徒を育成する。 4 保護者や地域と密接に連携し、地域に信頼される開かれた学校づくりをする。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(1月19日現在)		
年度目標			年度評価		次年度への課題と改善策		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<input type="checkbox"/> 現状 ・授業理解と満足度は概ね良好であるが、自主学習の習慣化には至っていない。 <input type="checkbox"/> 課題 ・授業改善・研究に取組み、生徒の学ぶ意識を高める必要がある。新学習指導要領に基づいたICT機器の活用や主体的・対話的な学びを通じ、生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立、自主学習時間を増加する。	生徒の学習意欲の向上と主体的な学習習慣の確立、自主学習時間の増加。	①全教科においてICT環境を積極的に活用し、本校生徒の実態に即した「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ②研修会、授業見学、教科会等を活用し、授業改善を進める。また各教科にて、隙間時間や、家庭等での自主学習に取り組みやすい授業・教材・課題作成について検討する。併せて保護者の協力も促す。	①学習意欲の向上と授業満足度に係るアンケートの結果。 ②授業改善につながる情報交換や検討の実施状況と各教科会の活性化。アンケートによる生徒の自主学習時間の状況把握。	①学習の主体的取組度 80.4%(+3.2)と増加、授業満足度 86.2%(-2.7)、授業が分かる 83.5%(-2.0)ともに減少。 ②授業研究週間(6.11月)相互授業観察実施。各教科積極的なICT活用による授業改善、家庭での自主学習時間増加に向けた課題作成・小テスト実施等取組内容を全体で共有し自主学習時間を増やす方策を実践した。1日の学習時間:「0~30分」75.2%(-1.9)、「1~2時間」16.9%(+1.5)。検査前・検査中「2時間未満」(+11.0)、「2~5時間以上」(-10.8)	B	各教科 ICT を活用した授業改善で授業へ主体的に参加する意識は向上したが、授業満足度、授業理解度は減少となった。依然として普段の学習時間は少なく、自主学習の習慣化が図れない生徒が多い。自主学習習慣化のため授業における一層の基礎基本の定着を図るとともにより具体的にわかりやすい指示と課題等を作成する必要がある。学校全体で危機感を持ち、1人1台端末を最大限活用する等、各教科・各学年の組織的な取組が必須である。
2	<input type="checkbox"/> 現状 幅広い進路希望の実現と3年間を見通した指導体制は構築されている。また、多様化する入試制度に対して、生徒、保護者とも進路指導満足度は概ね良好である。 <input type="checkbox"/> 課題 ・生徒に寄り添い「一つ上を目指す」進路選択をさせる取組を進める。多様な進路希望にこたえるため、教員の指導力向上を図る。	生徒の可能性と主体性を引き出し、生徒一人一人に、「一つ上」の進路を見出させ、サポートする。	①組織的かつ継続的に3年間を見通した進路指導を行うとともに、生徒・保護者へ十分な情報提供を行い、進路意識を高め主体的に進路実現できる生徒を育てる。 ②大学入学者選抜改革への対応と今後もコロナ禍が継続される中、専門学校、公務員、民間就職も含めた、全ての生徒に「一つ上」の希望進路実現に向けた指導を推進する。 ③全教員の指導力向上を図り、生徒一人一人の可能性や適性を見極めた進路指導を組織的に行うことで、「一つ上」の目標にチャレンジする生徒を育てる。	①生徒の主体性を育む各学年進路行事と分野別指導・説明会等の実践状況。進路日より等の進路啓発資料の発行状況。 ②生徒の進路希望状況と実現状況。大学受験や公務員試験受験での「一つ上」の目標を目指す取組状況。補習・面接・小論文等の指導実施状況。生徒・保護者の進路指導満足状況。 ③職員研修会の実施状況や入試選抜改革への対応状況、模擬試験や学びの基礎診断の分析と活用、キャリアパスポート(NOLTY手帳)の活用状況。	①各学年の進路行事はコロナ禍前と同様に実施することができた。また、進路啓発を兼ね、学年通信発行と進路説明会を実施し生徒、保護者に情報提供できた。 ②1月末までの進路決定率は90.7%(+0.6)、大学・短大52.5%(+1.7)、専門学28.5%(+4.1)就職8.0%(-6.2)。推薦で青山学院大、都留文科大等難関大に合格した。面接・小論文指導等学年団で協力して実施したが、進路指導満足度は生徒76.3%(-2.9)保護者74.2%(-11.3)で減少。 ③教員研修は「専門学校への進路指導」、「新課程入試情報共有」「スタディサポート結果分析」を実施。	A	依然としてコロナ禍の入試となったが、現時点で90.7%という進路決定率は、一般受験や不合格となってもチャレンジし続ける生徒が増えてきている。更に高い目標への挑戦できるよう生徒の意識改革継続は必須である。「一つ上を目指す」取組では、国公立大学受験に向けて、共通テストまで頑張った生徒が10名(+2)と増加したが、次年度も各学年が早い段階から高い目標設定をさせる取組が必須である。公務員試験に関しては、現時点で今年は16名合格内定。進学、就職(公務員)問わず「高い目標を目指す」指導を研究、実践が課題である。
3	<input type="checkbox"/> 現状 ・基本的生活習慣は概ね確立できているが、登下校時における自転車事故、交通マナーの苦情がある。 ・9割以上の生徒が部活動に所属し、各大会等で活躍しているが、コロナ禍の影響からか生徒の意欲やスキル、体力の低下もある。 <input type="checkbox"/> 課題 ・地域社会に信頼され、安全・安心な学校生活を送れるよう規範意識を醸成する。 ・運動部、文化部を問わず感染防止対策を講じながら生徒の主体性を育むとともに、新たな指導実践に取り組み、活動意欲の向上と、自己実現・競技実績の向上を図る。	継続的な生徒指導を通して、規範意識を向上させる。 豊かな人間性を育て、目標に向かって主体的に努力する生徒を育てるために部活動や学校行事の活性化。	①全職員の共通理解のもと、保護者との連携した指導を通じ、生徒自身に規範意識を高めさせる。 ②県警指定の自転車マナーアップ推進校の事業を効果的に推進する。	①遅刻件数、特別指導件数、交通事故件数、苦情件数。 ②全校集会での講演会や職員・保護者による立哨指導の状況。	立哨指導・一斉指導や頭髮服装指導等教職員の共通認識をもって年間を見通し実施し、規範意識を高める生徒指導が概ね達成できた。 ①遅刻率は昨年度より微増。特別指導12件(26名)、交通事故報告書20件(-9)、苦情11件(-3)。 ②全校集会時に交通安全指導を徹底。大宮東警察主催交通事故防止啓発運動、スケアードストリート実施。	B	登下校時の事故件数、交通マナーに関する苦情はともに減少したが、苦情の中には早急に改善が必要なものもあり、生徒の交通マナー遵守、交通事故ゼロに向け、一層の意識付けを徹底する。 部活動では、続くコロナ禍で陽性者が出た場合の活動制限はあるが、各部活動での感染対策徹底によりすべての部活動が各大会に出場できた。また複数の部活動が関東大会や全国大会入賞を果たすことができたのは大きな成果である。どんな状況でも生徒の意欲や体力・技術の低下をさせない工夫した指導が課題である。学校行事では2学年普通科修学旅行は行き先を変更し実施することができた。次年度もすべての行事において計画の段階から急遽変更が生じた場合の変更案も検討し、予定された行事は全て実施し生徒の主体性育成に繋げることが課題である。
4	<input type="checkbox"/> 現状 ・HPを充実させ、併せてコロナ禍に対応した学校説明会を実施できたが、本校の魅力発信には更なる改善が必要。 <input type="checkbox"/> 課題 ・コロナ禍での新たな近隣施設等の交流の在り方を検討し、本校の魅力と生徒の活躍ぶりが伝わる広報活動の推進、志願者数増加、開かれた学校づくりの推進。	本校の魅力を積極的にアピールし、生徒募集につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりの推進。	①ホームページの動画や学年、部活動のページの充実。Twitterでの発信、感染防止対策を徹底した学校説明会開催において「がんばる大東生」を発信し、本校への理解を浸透させる。 ②開かれた学校づくりを推進するため、コロナ禍でも感染対策を講じながら近隣施設等との交流・奉仕活動を積極的に行う。	①ホームページやTwitterの更新回数やアクセス数。学校説明会の参加者数やその満足度と好感度及び入学志願者数。 ②近隣施設等との交流・ボランティア活動等の地域交流の推進状況。	①HPは本校の特色・魅力を発信するため整理・工夫した。アクセス数は723,094(4.7%)であったが、更新回数も大会結果報告、学年行事や学校生活に関する更新等月平均40回更新。学年説明会参加者数2,368名(-3.3%)、アンケートでは「良かった」が74.5%(-3.2)その他補講説明会形式で披露した本校体操、校歌披露、受験生への応援の感想も多数。12/15現在の志願者率、普通科0.90倍(+0.22)、体育科1.26倍(+0.16)。 ②上級学校訪問、出前授業受け入れ、近隣施設との交流・ボランティア活動等、感染対策を講じ実施した。今年度も体育科小学校との学び合い、清音通停のボランティア、吹奏楽部、ソングリーディング部の発表等対策を講じながら実施した。	B	2学期以降の学校説明会は体育館で実施し、生徒主体の本校の魅力を最大限アピールできた。志願倍率に結びつく結果になっていないため、次年度も学校説明会の形式やホームページの内容の更なる充実が必要である。本校の特色、魅力の発信方法の工夫検討が必要である。 近隣施設等との交流は、依然としてコロナ前と同様にできないものもあり、規模縮小での継続や交流・ボランティア先変更を検討し、より地域に開かれた学校を目指すことが重要である。

学校関係者評価	
実施日	令和5年1月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	授業を工夫し、学習の重要性を繰り返し指導している様子がうかがえる。しかし、部活動の疲れからか、一部集中が途切れる生徒もいる。更なる工夫をお願いしたい。ICTの活用は未知数であるが積極的に推進し、短時間で学習習慣を継続させ、自主学習時間の増加を期待する。併せて部活動とどのように両立させていくのか検討してほしい。評価については妥当である。
将来の職業を考えて進路選択のアドバイスをしているように感じた。引続き、進路実現や自己実現のために細やかな指導をお願いしたい。生徒にとって一番身近な人生の先輩として、生徒に働きかけて欲しい。進路に優劣はない。自信を持って自ら選んだ道に進めるように背中を押してあげて欲しい。相談室をはじめ進路関係のスペースがもう少しあってもよいのではないか。評価は妥当である。	
本校の基本である人として大切な礼儀と挨拶について引続き指導いただきたい。自転車のマナーについて以前より良くなっている状態も見て取れるが、スマートフォンの使用を散見する。立哨指導が七里駅から学校を中心に行われているが、岩槻方面など多方面にも目配りが必要ではないか。4月以降のヘルメット努力義務についても生徒の安全を考え、検討をお願いしたい。 陸上をはじめとする多くの部活動の、このコロナ禍での好成績は賞賛に値する。この頑張りを地域に卸す(発信)新たな方法の工夫を考えてもよい。引続き活動の充実を期待する。今後は科学的根拠をもとに体育科のある学校として、最先端の指導を期待する。コロナ禍ではあるが、生徒の成長に大きく関与する学校行事は必ず実施いただきたい。評価は妥当である。	
大宮東高校の学校イメージは多くの方々に理解され定着しているが、故に敬遠されがちである。しかし、広報活動を充実させて建学の精神を理解いただけるように努力してほしい。学校をより深く理解してもらい意味でも、体育祭と文化祭の一般公開は必要である。地元であるさいたま市内の中学生への部活動指導など様々な方法で、情報発信が必要。多くの方が実際に大宮東高校に足を運んでいただき、生徒、教員と直に接し学校の魅力を感じ、3年間通いたいと思える学校にしてほしい。評価は妥当である。	